



平成22年5月13日

各位

上場会社名 富士機械製造株式会社
 代表者 代表取締役社長 曾我 信之
 (コード番号 6134)
 問合せ先責任者 取締役専務執行役員管理本部本部長 加藤 正樹
 (TEL 0566-81-2111)

通期業績予想値と実績値との差異に関するお知らせ

平成22年2月9日に公表した平成22年3月期(平成21年4月1日～平成22年3月31日)の業績予想における予想値と本日公表の実績値に差異が生じたので、下記のとおりお知らせいたします。

記

(金額の単位:百万円)

平成22年3月期通期連結業績予想と実績の差異(平成21年4月1日～平成22年3月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回発表予想(A)	百万円 40,000	百万円 △7,200	百万円 △7,000	百万円 △7,500	円 銭 △153.42
実績(B)	41,747	△6,212	△5,842	△4,828	△98.78
増減額(B-A)	1,747	987	1,157	2,671	
増減率(%)	4.4	—	—	—	
(ご参考)前期実績 (平成21年3月期)	69,485	5,229	6,118	1,001	20.49

平成22年3月期通期個別業績予想と実績の差異(平成21年4月1日～平成22年3月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回発表予想(A)	百万円 37,000	百万円 △6,600	百万円 △6,400	百万円 △6,700	円 銭 △137.06
実績(B)	38,891	△5,766	△5,358	△3,892	△79.63
増減額(B-A)	1,891	833	1,041	2,807	
増減率(%)	5.1	—	—	—	
(ご参考)前期実績 (平成21年3月期)	63,134	4,510	4,671	273	5.60

差異が生じた理由

電子部品組立機事業において、年明けからの受注の急増による業績の回復により次期以降の増収増益が予測される事から、将来の回収可能性を検討し、当期の繰延税金資産の計上を見直したことにより、上記の業績となりました。

なお、当連結会計年度において、主に工作機械事業における経営環境の著しい悪化による収益性の低下、その他の事業における回収可能価額の著しい低下等が見込まれることから、それぞれの資産グループの帳簿価額を回収可能価額まで減額し、特別損失(減損損失)2,638百万円を計上いたしました。

以上